

教育活動における農村空間の活用と地域活性化

Use of Rural Space in the Educational Activities and Revitalization of Rural Community

藤永 豪^{1*}

Go Fujinaga^{1*}

¹佐賀大学文化教育学部

¹Saga University

佐賀大学では、「佐賀大学地域創生学生参画型教育プログラム」と銘打ち、佐賀県旧相知町（現唐津市）蕨野地区の棚田において、同大学農学部による棚田保全活動が実施されている。田起こしから田植え、除草、収穫などの農作業はもちろんのこと、収穫物の加工・調理、棚田の石垣や水路の補修といった教育実習を現地の住民と共同で行っている。

この発端は、2003年に佐賀大学農学部が旧相知町と地域活性化のための「地域連携交流協定」を締結し、荒廃していた棚田の復元・保全活動を中心とした教育プログラムを策定したことにある。このプログラムでは、前述のさまざまなフィールド型の教育を実践し、教育現場としての農村空間の活用をとおして、蕨野地区の活性化を図ることを目的としたものであった。現在では、付加価値をつけた「棚田米」の販売や菜の花などの景観作物の栽培、小学生を対象とした環境教育の実践、NPO法人との協力による都市農村交流に関する各種事業の実施など、一定の成果を上げている。また、2008年には、国の「重要文化的景観」に選定されている。このような蕨野地区の成功は、大学による地域への働きかけと同時に、当然ながら、地域自体のコミュニティ維持に対する強い意志や積極的な活動が鍵となっている。もともと蕨野地区には、佐賀県の補助を受け、同地区の振興を目指す組織が結成されており、こうした受け皿としての地域の基盤があったところに、実践的教育現場を求める大学の参入が契機となって、現在のような地域活性化に繋がっていったといえる。本報告では、棚田という地域資源が大学のフィールド教育とどのように結び付き、地域住民がこれとどのように関わり合い、地域振興へと活用されていったのか、そのプロセスとその社会的背景について整理、検討したい。

キーワード:農村空間,教育活動,地域活性化,地域資源,佐賀県唐津市相知町蕨野地区

Keywords: rural space, educational activities, revitalization of rural community, regional resource, Warabino district